

第28号 (2011-2) 2011年10月20日

大学評価学会通信

目 次

◆ 第35回研究会の案内	1
◆ 研究会の報告	2
◆ 第9回全国大会の概要について	5
◆ 自由論題報告者の募集	6
◆ 第2回田中昌人賞の選考について	6
◆ 会員が執筆した著作の紹介	7
◆ 学会日誌	8

第35回研究会を開催します

下記により第35回研究会を開催いたしますので、お繰り合わせの上、ご出席ください。

記

- ・ 日 時：2011年11月12日（土）13:30～17:00
- ・ 場 所：早稲田大学（早稲田キャンパス）9号館6階 第2小会議室
<http://www.waseda.jp/jp/campus/waseda.html>

※ JR高田馬場駅からは「早大正門行き」のバスで終点まで。
東京メトロ東西線早稲田駅からは歩いて5分。

- ・ 内 容：渡部昭男氏（神戸大学）「高校授業料無償化の争点－法制定過程とその後－」
重本直利氏（龍谷大学）「教育・研究にふさわしいマネジメントへの転換、
PDCAサイクルからCDHAコミュニケーションへ
－日本私大連盟・PDCAサイクル研修批判－」
- ・ その他：龍谷大学社会科学研究所（大学評価・大学経営研究センター）2011年度
第3回研究会との共催です。

＊ なお、同日10時30分から、同所で第Ⅳ期第7回理事会を開催します。理事、幹事の方
のご出席をよろしくお願いいたします。

研究会報告

第33回研究会

6月18日(土)午後、龍谷大学において大学評価学会第33回研究会が開催されました。この研究会では、以下の二つの報告が行われました。

小池由美子氏（埼玉県立川口北高校）

「学校評価と四者協議会―草加東高校の開かれた学校づくり」

野中郁江氏（明治大学）

「私立・国立同等の原則」

第1報告では、埼玉県立草加東高等学校における「学校評価」の実践について、小池さんの著書（報告タイトルと同じ内容の書名）にもとづいて報告がありました。第2報告では、大学に対する公財政出のあり方について「私立・国立同等の原則」という根源的な問題提起がなされました。それぞれ報告を受けて、活発な質疑応答が行われました。

この研究会は、龍谷大学社会科学研究所（大学評価・大学経営研究センター）ならびに高等教育研究会（京都）との共催で開催されました。お二人の報告は、高等教育研究会の『大学創造』最新号に収録される予定です（11月末頃に刊行予定）。

第34回研究会

【職員問題研究会】

報告①「国立大学法人における職員評価のPDCA」

武市全弘さん（名古屋大学職員組合）

報告②「大学職員の協働・連携と『PDCAサイクル』」

津田道明さん（日本福祉大学）

このところ夏の定例研究会は、「職員問題研究会」と題して京都駅前のキャンパスプラザ京都で8月下旬の土曜午後に開催されることが通例となっていました。今年も「大学評価サマーセミナー」の一環で2日間の日程の一コマとして名古屋で開催されることとなりました。このことが影響してか否か、今年の参加者は例年よりは、かなり少なめとなりました。特に大学職員の参加が僅少であったことは残念でなりません。

報告は、上記の2本であり、いずれも大学職員と評価に関わる基本的な現場の課題を報告されるものでした。評価の概念が混乱しているのかもしれませんが、職員の場合の「評価」は、教員のそれよりもかなり踏み込んで、個々人の給与や処遇に連動されることが多くなっています。評価とは本来は、組織や構成員の改善点を明確にし、それぞれの成長や充実を促すも

のであるはずですが、職員に関わる「評価」の現実とは掛け離れ、組織の中における個人の序列や処遇を正当づける道具となりつつあります。職員の間では、人事考課は「評価」のための欠くべからざる制度という認識が広がりつつあります。

この誤った「評価」の動力源がPDCAサイクルであり、組織の目標に沿った個人の目標を設定させられ、その達成度による「評価」を職員は受けていくことになります。そして、この「評価」は、直接的あるいは間接的に給与や処遇に反映させられることとなっています。いわゆる「評価」とPDCAサイクルは巧妙に連動され、PDCAサイクルの枠内での業務に個々の職員は邁進していくことになります。そして、それぞれの職場からは、働く者の連帯や絆といったものは薄れていき、職員職場が分断されていくことになります。

このような「評価」の現実の中で、職員は多くを語らず、面従腹背的にPDCAサイクルの中での仕事に埋没しているのが現実といえるでしょう。職員にとっては、PDCAサイクルの中での「評価」を高めることこそが、目標となっていると言い切ってもよいかもしれません。

それぞれの大学の執行部において、PDCAサイクル万能の職場政策が大学に何をもたらすのか、といった命題に対して危惧感を抱いている人がどれだけいるのでしょうか。そのような大学運営におけるPDCA万能主義の蔓延の中で、大学職員が主

体的な意思を持ってこの課題を議論し、直面していくことは、相当な勇気と困難を要することであるともいえます。このような課題を正面から議論する場に職員が出てこなくなってきたことから、職員職場の現実の閉塞性を窺い知ることが出来ます。

職員問題研究会に課せられた命題の大きさをあらためて認識するとともに、この場に集う職員層の開拓の必要性を感じさせられた夏のセミナーでした。

(文責：村上孝弘)



「非常勤講師問題に関する緊急ミーティング」の報告

6月12日（日）、中央大学で開催された労務理論学会第21回全国大会のプログラム外企画として「非常勤講師問題に関する緊急ミーティング」が開催されました。主催は、労務理論学会第21回全国大会実行委員会であり、大学評価学会は共催団体として企画に協力しました（他に、龍谷大学社会科学研究所（大学評価・大学経営研究センター）も共催）。

この緊急ミーティングでは、塚田亮太氏（専門的非常勤講師）が「専門的非常勤講師の教育・研究の実態」のテーマで、細川孝氏（龍谷大学）が「龍谷大学における非常勤講師問題への取り組み」のテーマで、それぞれ報告しました。お昼休みの限られた時間ですが、参加者によって議論が深められました。

「2011年度大学評価サマーセミナー」の報告

8月26日（金）、27日（土）の2日間、愛知工業大学本山キャンパスにおいて、「2011年度大学評価サマーセミナー」を開催しました。大学評価学会のサマーセミナーは、今回が初めての開催であり、この間学会によって刊行された、「シリーズ『大学評価を考える』」の三つの巻の普及を兼ねてのものです。

セミナーは、この間刊行された『大学改革・評価の国際的動向』、『P D C Aサイクル3つの誤読 — サイクル過程でないコミュニケーション過程による評価活動の提案に向けて』、『大学評価基本用語100』のそれぞれをテキストにした三つの講座の他、特別セッション（沢田昭二氏（名古屋大学名誉教授）「坂田昌一のめざした研究体制」）と事務職員問題研究会（第34回研究会）によって構成されました。

それぞれの講座、特別セッションとも、内容の濃い講義（講演）と活発な質疑応答が行われました。参加者に感銘を与えた沢田氏の講演については、学会年報『現代社会と大学評価』に収録される予定です。第34回研究会については、別項の報告をご覧ください。

末尾になりましたが、サマーセミナー開催にあたってご尽力いただいた川口洋誉会員、米津直希会員、石井拓児会員に感謝申し上げます。



大学評価学会年会費納入のお願い

7月に学会年会費の請求書をお送りしました。会費納入がまだの会員の方はよろしくお願いいたします。ご不明な点がございましたら、学会事務局までご連絡ください。学会財政担当 細川孝（事務局長）

612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学

e-mail : hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp

電話・Fax : 075 (645) 8634<ダイヤルイン>

第9回全国大会の概要について

第9回全国大会は、2012年3月10日（土）、11日（日）に、早稲田大学において開催されます。第IV期第6回理事会（8月28日開催）で議論し、以下のような概要を決定しました（その後の経緯を踏まえて、加筆・修正しています）。大会プログラムは、11月12日に開催される第7回理事会で、最終決定されることとなっています。お気づきの点等ありましたら、学会事務局までお知らせください。

- ・日時：2012年3月10日（土）、11日（日）
- ・会場：早稲田大学（東京都新宿区）
- ・大会実行委員長：岡山茂会員（学会理事）
- ・大会テーマを「質保証から発達保障へ」とする。
今日の大学評価をめぐって、（「PDCAサイクル」とともにキーワードとなっている）「内部質保証」について批判的な検討を行い、学生（や教職員）の発達保障に向けて、大学と大学評価のありようを根源的に問い直したい。
- ・シンポジウム報告者については、「質保証から発達保障へ」のテーマのもとで報告いただける方に依頼する（現在調整中）。
- ・記念講演を、広渡清吾会員（専修大学、前日本学術会議会長）にお願いする。3月10日に記念講演いただくということですのでにご了解をいただいた。
- ・分科会については、以下のとおり3分科会とする。
 - 学校評価分科会（3月11日の午前にミニシンポジウムとして開催する）
 - 事務職員分科会（3月11日の午後）
 - 公立大学評価分科会（3月11日の午後）従来の午前、午後に2分科会ずつ、合計4分科会の形式は改めることとする。ミニシンポジウムの時間帯は、分科会を複数開催しないということである。
学校評価分科会については、小中高における教育評価を含めて議論し、「学士力」についての検討も行いたい。
事務職員分科会は、職員理事で趣旨文を作成する。
公立大学評価分科会は、第8回大会に引き続き、議論を行いたいということである。
- ・会員報告の分科会は、第8回大会同様に、第1分科会として初日の10日（土）午前に開催する（上記の3分科会の他に）。
- ・大会準備については、以下のとおりとする。
 - 次回理事会（11月12日、於：早稲田大学）の際に、プログラムを確定するとともに、会場（予定）の下見を行う。
 - 2012年1月末にプログラムを発送する。
 - 東京在住の理事・幹事および学会事務局を中心に実行委員会を設ける。
 - 準備の詳細については、開催校（岡山理事）と協議の上、具体化する。

第9回全国大会における会員自由論題報告者を募集しています

2012年3月10日（土）、11日（日）に、早稲田大学において、大学評価学会第9回全国大会を開催します。

大会1日目（10日）の午前に開催する第1分科会は、会員自由論題報告の分科会として予定されています。この分科会で報告を希望される方は、2011年12月10日（土）までに、学会事務局宛に、氏名、所属と報告テーマを、お知らせ下さい。

申込先は、メールの場合は、hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp

電話・FAXの場合は、075(645)8634（細川）となっています。

第2回田中昌人賞の選考について

第2回田中昌人賞選考委員会では、候補作の推薦を受け付けています。受付は学会事務局で行い、推薦の〆切を2012年1月10日（火）とします。

対象者および対象業績等は「田中昌人記念学会賞運営規程」（2009年8月3日施行）によって、以下のように定められています。

＜対象者＞本会会員とする。原則として若手の研究者とするが、年齢制限は特に定めない。

＜対象業績等＞対象は本学会誌および本学会シリーズ本での掲載原稿とする。ただし、学会外の出版物および掲載原稿も可とするが、この場合は会員2名以上の推薦者による推薦とする。なお、自己応募はなしとする。

選考結果は、2012年3月10日開催の第9回総会において報告します。あわせて、受賞者への表彰を行います。

申込先は、メールの場合は、hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp

電話・FAXの場合は、075(645)8634（細川）となっています。

会員が執筆した著作の紹介

岩崎保道会員から以下の文献の紹介がありました。

1. 岩崎保道編著『大学政策論』大学教育出版、2011年6月

(A5判244頁、定価2,520円(本体2,400円))

高等教育機関においては、その役割に対する大きな期待の半面、様々な課題が挙げられている。大学の役割や機能、制度などの基本的な概要を概観し、大学に関わる諸課題を解説することを通じて、現在の高等教育制度の全体像を提示する。

【目次】

- 1 大学の基本的機能と動向
- 2 高等教育制度概論
- 3 キャリア支援
- 4 大学評価
- 5 私立大学経営
- 6 大学連携—大学コンソーシアムを中心として—
- 7 産学官連携と大学発ベンチャー
- 8 FD(ファカルティ・ディベロップメント)
- 9 SD(スタッフ・ディベロップメント)
- 10 大学会計(国立大学法人会計、学校法人会計)
- 11 諸外国の高等教育制度

2. 私立学校再編・再建研究会編『学校の再編と再建』商事法務、2011年6月

(A5判201頁、定価2,520円(本体2,400円))

本書は、近年増え続ける学校法人の倒産事例を分析・解説し、その再建・再編方法をガバナンスの観点も含めて模索・探求した書物である。執筆は弁護士、公認会計士等が担当しており、実務家が中心となって学校の再編・再建問題について取り組んでいる。

【目次】

第1編 学校の再編

1. 「学校の再編」
2. 学校法人慶應義塾と学校法人共立薬科大学との合併
3. 学校の統合・分離における法律問題
4. 学校法人の再編・再生と学校法人会計

第2編 学校の再建

1. 学校法人の法的破綻事例
2. 私立大学の民事再生手続活用事例
3. 学校法人の民事再生の法律問題

第3編 学校の管理と運営の特徴

1. 学校法人会計の特徴
2. 大学設置基準の概要
3. 私学助成
4. 学校法人のコンプライアンスと経営者の資質

【大学評価学会の日誌】

2011年 6月12日（日） 「非常勤講師問題に関する緊急ミーティング」（於：中央大学）
6月18日（土） 第33回研究会（於：龍谷大学）
8月26日（金）、27日（土） 大学評価サマーセミナー（於：愛知工業大学）
8月27日（土） 第34回研究会（同）
8月28日（日） 第IV期第6回理事会（於：名古屋大学）

<予定>

2011年11月12日（土） 第35回研究会、第IV期第7回理事会（於：早稲田大学）
2012年2月 第V期理事の「会員からの立候補者ないしは会員3名の推薦による立候補者」受け付け（理事選出管理委員会）
3月10日（土）、11日（日） 第9回全国大会（於：早稲田大学）
3月10日（土） 第IV期第8回理事会、第9回総会（同）
3月11日（日） 第V期第1回理事会（同）

<編集後記>

先日、生まれて初めて「胃カメラ」なるものを飲み込み、そしてもちろん生まれて初めて自分の身体の内側を見てしまいました。怖いような新鮮な体験でした。内側？ いや違う！ 消化器官は口から肛門まで筒抜けだから厳密には身体の内側、「洋服の内側」を見ていることと同じかな？ 普段みることもない、また見なくても生きていけるところをみることも大切なのかも。失礼いたしました。（な）

編集・発行：大学評価学会 共同事務局

〒560-0043 豊中市待兼山町1-16
大阪大学・大学教育実践センター
望月研究室 気付
e-mail: taromoch@cep.osaka-u.ac.jp

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
龍谷大学 細川研究室 気付
Tel：075(645)8634（細川）
075(645)8542（林）
e-mail: hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp
URL： <http://www.unive.jp/>

<会費納入先> 郵便振替口座番号：00950-4-296005 名称：大学評価学会
